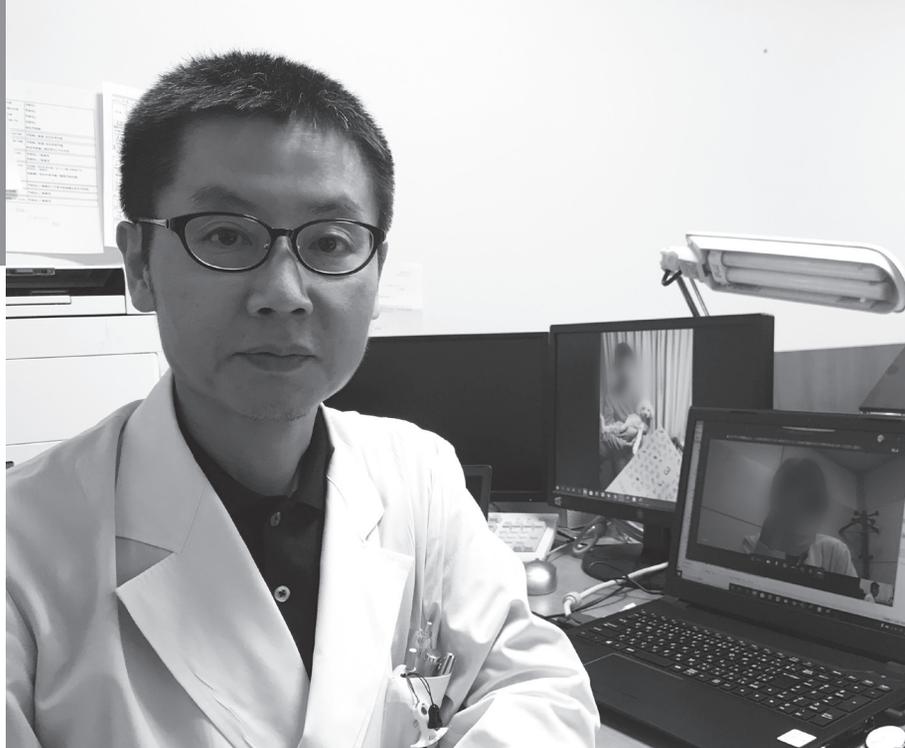


INTERVIEW

日光市民病院 管理者
杉田義博 先生



目の前のニーズに、 覚悟をもって取り組む —かつても、今も、そして、これからも

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

へき地医療にはまった医学生～研修医時代

山田隆司(聞き手) 今日日光市民病院の管理者、杉田義博先生のお話を伺います。本来なら日光まで何うべきところですが、今日の時点ではまだ東京の緊急事態宣言が解除されていないので、テレビ会議でのインタビューとなりました。日光市民病院の管理者に着任して取り組んできたこと、また日光市民病院が感染症病床を持っているため、早期から新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れていらっしゃったということで、そういったお話を伺えればと思います。

まずは、これまでの先生の経歴を紹介していただけますか。

杉田義博 私は熊本市生まれの田舎育ちで、本当は高校を卒業して現役で長崎大学の医学部に入っ

て、「長崎県医学修学資金貸与制度」を使って医師になろうと思っていたのですが、落ちまして(笑)、1浪して、昭和60年に自治医科大学に入りました。当時、自治医大では、医学生が卒業生を訪問するという地域医療派遣団が行われていて、私も1年生のゴールデンウィークに参加しました。その時、三重県神島の奥野正孝先生が大学に戻っていらっしゃった時だったので、奥野先生や先輩、当時の看護学生と一緒に神島を訪問し、それからは毎年のように神島を訪れるようになりました。そういう縁もあって、大学5年生のときに地域医療学教室に関わり、そのときは玉田太郎先生の時代で、飯島克巳先生、佐々木将人先生、鶴田貴志夫先生、萱場一則先

生たちがいらっしゃり、学生ながら総合医学術集会の開催や診療所総覧の作成を手伝うようになりました。

決め手だったのが、6年生になる直前の地域医療実習です。山田先生がまだ久瀬診療所の所長の時に、先生のところにBed Side Learning (BSL)の一環として派遣されました。

山田 そうでしたね。

杉田 先生のところで1週間くらい過ごしたのですが、診療所での山田先生の姿に総合医の理想像を見たとともに、近くの病院に内視鏡をしに行かれた際にも同行させてもらって、その帰りにすごくおいしいお寿司をごちそうになったのを覚えています(笑)。それから開院間もない大宮医療センター(現 さいたま医療センター)にBSL 1期生としていきました。

なんとか国試に合格しまして、卒業後は、熊本赤十字病院の救急で2年間の初期研修を受けました。ほんとに死ぬほど忙しい365日救急体制の病院で、研修医1年目は連日当直のような感じで、2年目も家でゆっくりした記憶はありません。大きな台風が来て被害も出ていたようですが、一晩中病院にいて全く知らなかったくらいです。腎臓内科を中心に救急では全科を担当し大変でしたが、その間も学生時代から続けていた診療所総覧の作成は継続していました。初期研修が終わると熊本県では3年目の医者が一人診療所に行くことになっており、私は人口500人の離島である、大矢野町立湯島へき地診療所の所長として赴任しました。日赤で救急を鍛えられたおかげで診療はなんとかこなしていたのですが、一番怖かったのは自分自身のフグ中毒でしたね(笑)。ヘリ搬送もない時代に島で一人の医者として、あのときは死ぬかと思いましたが、何とか死なずにくぐり抜けました。

4～5年目に県人会の幹事をやることになり、

県庁に何回も交渉しに行って、県庁の担当者さんの努力と当時の衛生部長であった星子先生のおかげで、当時熊本の自治医大卒医師には認められていなかった後期研修制度ができました。

山田 熊本県は卒後研修という点で、全国の中でも最も、苦勞している県の一つですよ。

杉田 現在は県と卒業生の関係はずいぶんよくなっていますが、一期生からずっと苦勞されていたと聞いています。県立病院がなかったのも、唯一自治医大卒の居場所が熊本赤十字病院という感じでしたね。

山田 後期研修は県外でも認められていますよね。

杉田 はい。1年間に限られますが、全国どこでも研修できて基本給が支給され、いわゆる義務年限に含まれます。

山田 そうなると9年間のうち、初期研修2年、後期研修1年で、残り6年がへき地勤務だったのですか。

杉田 当時はへき地診療所が4カ所、地域の病院が4カ所ありました。2カ所の中核病院もへき地に近く、他県に比べるとへき地勤務の割合が多かったと思います。今はへき地診療所が中核病院からの出張診療になったりして、卒業生の勤務環境はかなり良くなったと思います。

山田 離島診療所へはどのくらい行っていたのですか。

杉田 2年間です。次に県南の公立多良木病院へ行きました。卒業生が大勢いらっしゃる病院で、ものすごい山奥の出張診療などもあり楽しかったですね。その後、自分でつくった後期研修制度の第1期生として、1年間自治医大の地域医療学教室へ後期研修にいきました。この時は五十正紘先生が教授で、奥野先生が助教授、スタッフとして名郷直樹先生、後藤忠雄先生、浅井泰博先生が、レジデントとして井上陽介先生、大西康史先生、今井康友先生、村上智彦先生らがいらっしゃる時期でした。総合医学術集会の